



### 軟弱古書店

京都府京都市左京区吉田二本松町4-3白堀荘25号室  
☎050-3743-3545  
営業時間・定休日：不定休  
(ウェブサイトで掲載のこと)  
<http://yamanohon.jp>



アパートの一室が古書店となっている



『登山の小史と用具の変遷』  
西岡一雄著  
朋文堂／1958年

「明治から戦後の日本山岳の歴史書。ところが著者の手にかかると頗る読み物になります。しかしして登山史に忠実で、出典もわかりやすい。同部一彦氏の解説も楽しいです。」

いぶん興 古い山の友人かからず  
。山の古本だけ。を売る店が京都大学近くにあると聞いていた。それを思い出し、8月3日、「36℃の猛暑のなか、その「軟弱古書店」を訪ねてみた。

いかにも山の匂いがする店員たつたから、私の脳裏にもしつか刺み込まれおり、いとも簡単に所在を突き止めることができた。営業日が限定されていると聞いていたので電話をすると、すぐに「お待たしていません」という返事がかえってきた。

京阪電鉄、由田駅から201系系統バスに乗り、近衛通、ス停で下車。近衛通りを東進してニースコートの角で左折すると、200mほど左側に「白堀荘」という洋館建てアパートがある。

京都大学吉田祭の裏表に位置する、この2階公与室をお借りしての店である。道内内外の名所のため、店主の中山幹彦さんが建物の前に出て、待っていてくれた。「山の本を通じて山の魅力を

伝えたい」という彼は、昔は山岳部、探検部に身を置いていたという根っからの山好きのようだ。ちなみに、店名の軟弱

古書店は探検部の先輩から「軟弱で

ある！」と言われたことに由来するらしい。

白堀荘の玄関を一歩入ると懐かしい

空気が漂ってきた。案内された2階の

店内には「山と溪谷」「アルプ」のバッ

クナンバーをはじめ、山の写真集、瓜

生草三の「谷川岳」、ガストン・レビュ

ファの「天と地の間」などのほか、安

川茂雄の「霧の山」といった小説も含

め、山に関連する本がぎらりと並び、

昭和の昔にタイムスリップしたような

気さえする。

聞けば、お店が入っている白堀荘は、

築100年以上の洋館で、大正初期の

修道院の建物だという。このアパート

には、古書店や出版社、撮影スタジオ

なども進んでいるらしいが、静寂が保

たれ、なんとも敏厳な時間を過ごさせて

いただいた。

## 「古書店②」

### 軟弱古書店

〈京都府・京都市〉

小島屋書店・叢書・文・家系

『登山の小史と用具の変遷』  
おすすめの1冊



山開きの本が並ぶ棚の一部



店主・中山幹彥さん

